

## with Virus(ウィズバイラス)時代の新しい飲食物の可能性

矢澤一良

早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所ヘルスフード科学部門

### 1. 要約

with Virus・少子超高齢社会時代の「well-being」を目指して、多岐にわたる「機能性飲料」の製品開発を提唱したい。

### 2. 内容

COVID-19及びその変異株の影響は思いがけなく大きく、今回ほど医療先進国としての欠点が指摘され、大きな経済変動まで引き起こしたものは無い。

一時的な流行と考えずいつでも起こりうる事(With Virus)との認識に基づいて予防対策を万全とする事、また一方で否応なしに2025年に迎える「団塊世代の後期高齢者化」に対抗する方法は共に「機能性食品による予防医学」が基本概念であると考えている。

機能性食品のジャンルとしては「特定保健用食品(トクホ)」の歴史が十数年あり、一定の市場性も確保しており、その後2015年には「機能性表示食品」新制度が開始となり、現在(2022年)では5,000超の登録がなされており、国民の多くの人たちが「食と健康」に深い関心を寄せる時代が到来して来た。3食をきちんと摂取するだけでなく、何気なく飲食して来た食材、食品、飲料には、それぞれの機能性を有する事が理解され、何を選択するべきかの指針も示されて来つつある。

「おやつ」は多くの人々が日常的に口にし、幅広い層から愛されている食であるが、その効果は、エネルギーや糖分の補給、食事だけではまかないきれない栄養素の補給等、栄養学的な身体面への効果のみならず、リラックスや癒し効果、時にはコミュニケーション・ツールにもなる等、精神面への効果等も期待し得るものである。これに加えて、現代の健康志向の高まりと共に、例えば、エネルギーをなるべく低く抑えたり、特定の栄養素の含有量を強化する等して栄養素を調節し、第三次機能にみられるような、からだの調節を整えることにも貢献しようとするおやつも日常的に利用できるようになってきた。このような、食品や飲料としての第三次機能をも併せもつおやつを「機能性おやつ」として、発展してきている。

「おやつ」の定義の中には飲料も含まれており、それを「機能性飲料」ととらえ、上記「おやつ」と全く変わらない理念にて研究・開発が進んでいる。「おやつのお供」には、のどを潤す飲料は必須である。また単に渴きを癒す、爽やかさを得る目的に止まらずに、機能性成分を強化した飲料が予防医学上も求められている。

すなわち「見直されるべき新しい飲料のジャンル」が「機能性飲料」であるとの認識を持つべきである。

「機能性飲料」は、当然ながら利用する対象やタイミングなどによって利用目的が異なってくる。例えば、男性、女性といった性別の違いや、思春期、中高年、高齢期といったライフステージの違い、疾患の有無、感染予防や環境の違い等で、「機能性飲料」を利用する目的により求められる「機能性成分」は異なってくる。軽作業や重労働、スポーツ選手等、活動内容の違いによっても、メンタルヘルスや睡眠などにも有用なものなど、「機能性飲料」は様々であろう。

今後 with Virus・少子超高齢社会時代の「well-being」を目指して、多岐にわたる「機能性飲料」の製品開発を提唱したい。